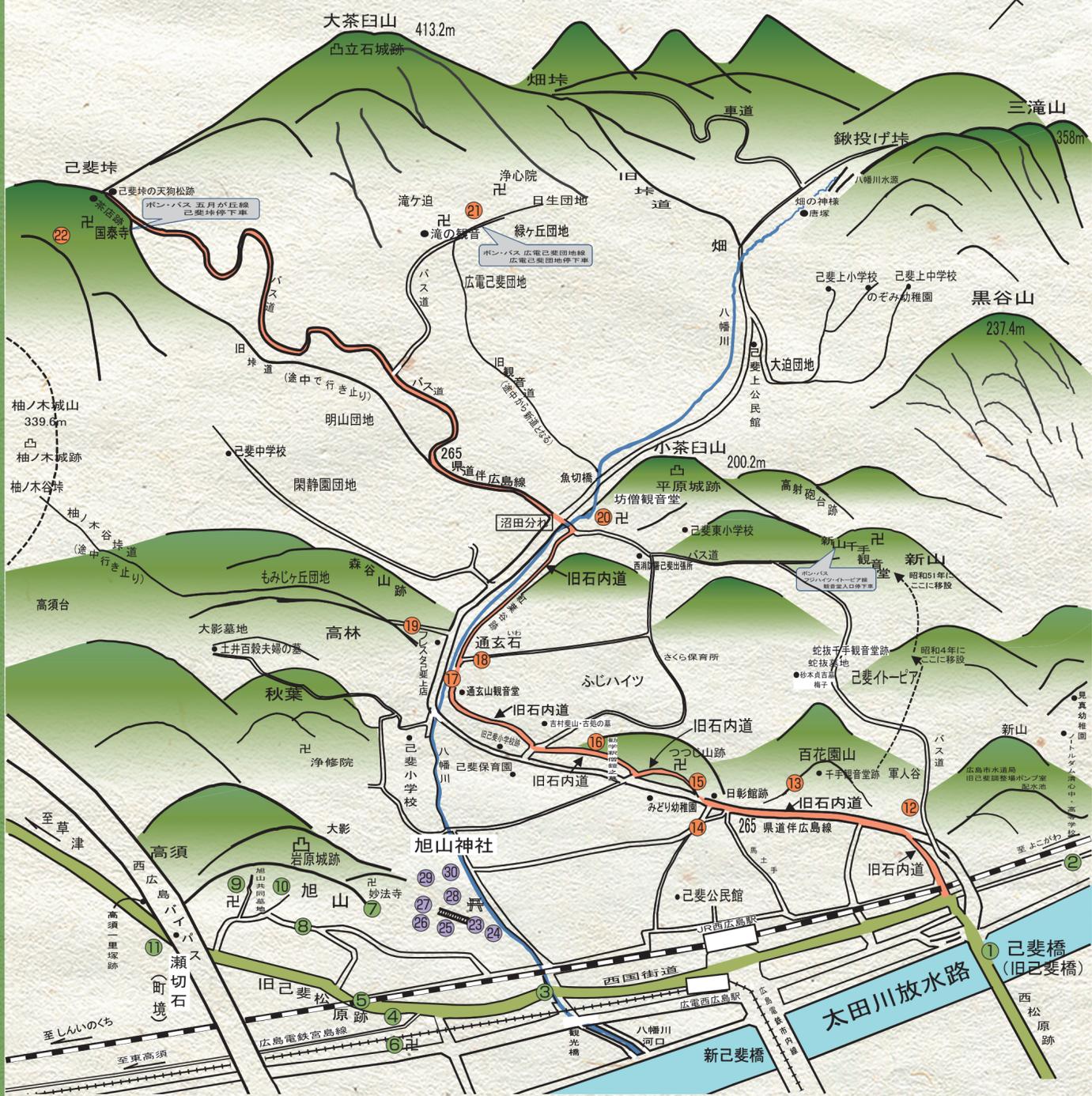


己斐の歴史めぐり案内地図



西国街道(旧山陽道)の歴史めぐり(己斐橋から瀬切石までの約1Km)

<h3>①旧己斐橋</h3>  <p>己斐橋は城下から佐伯郡へ出る橋といことで出郡橋と佐伯郡と沼田郡との境にあるので佐沼橋と呼ばれたこともある。毛利氏の時代に架橋されたもので西国からの玄関口にあたり戦時上土橋であった。木橋になったのは明治10年代、コンクリート橋になったのは1926年(大正15年)年3月28日で、長さ80mだった。</p>	<h3>②キリシタン殉教の碑</h3>  <p>徳川幕府がキリシタン弾圧を始めたのは1628年(寛永5年)長崎においてである。広島藩でも迫害が行われた。1634年(寛永11年)己斐の河原でキリシタン5人が火刑に処せられた。1984年(昭和59年)他地でも多くの殉教者があったことを伝えるため多くの殉教者があったことこの地に代表して殉教の碑が建立された。</p>	<h3>③源左衛門橋</h3>  <p>江戸時代の初めの頃、ある大名が通りかかると八幡川が出水して川を渡れず困っていた。近所の柴竹源左衛門が板を持って来て渡してやった。それでこの名が付いた。高、柴竹源左衛門は第3代広島城主浅野長成公の幼友達で招かれて己斐「柴竹庄」をもらい住んでいた。</p>	<h3>④別れの茶屋</h3>  <p>己斐の源左衛門橋を渡っておよそ200メートル西進したところに茶店があった。現在はパン屋である。柴竹家の家伝書によると浅野長成公が幼友達の柴竹源左衛門と茶を飲み、世間話を別れた後と伝えられている。浅野長成公は1619年から1632年の間、第3代広島城主であった。</p>	<h3>⑤己斐松原跡</h3>  <p>1633年(寛永10年)、幕府巡見使の巡察を契機に領内の道路網の整備が一挙に進められた。己斐の西国街道は己斐橋から瀬切石までおよそ3キロメートル、街道松が3間毎に植えられたので計算上は約400本になる。己斐松原はその変形が著明らしく、広島の大松原に比べると、昭和45年、松原はなくなった。写真はありし日のしづく松。</p>
<h3>⑥善法寺</h3>  <p>福雲山善法寺、浄土真宗本願寺派 1556年(弘治2年)第1世慈善和尚が阿戸村に臨濟宗弘通寺派進光庵を創立。1628年(寛永5年)広島藩に寺院を移し、寺号を「善法寺」と改めた。1708年(宝永2年)浄土真宗に改宗。1928年(昭和3年)第16世至道は開闢を己斐に建て、寺町から移転、1936年(昭和11年)本堂建設、現在に至る。</p>	<h3>⑦絶佳園跡</h3>  <p>神功皇后が三韓征伐の途上「野立」せられた所と言われている。浅野時代はミカンの栽培が行われていた。1907年(明治40年)頃、舟入町の大村文太郎氏が坂、かいどうを植えて絶佳園と名付けた。山上からの眺望は内海の景と水木の美と相応じて絶佳であった。現在は石段が残るのみである。</p>	<h3>⑧御船着</h3>  <p>200年頃、仲哀天皇のとき神功皇后が三韓征伐の途上、その船団を率いて己斐の「御船着」に到着され松山(後の旭山)に登られ野立された。この御船着は現在も名残が残っており、旭山の南側の山沿いの小道で高須との境界瀬切石より100メートル手前辺りが起伏して昔海岸線だった様子を呈している。</p>	<h3>⑨西福院と淡島大明神</h3>  <p>長楽山清照寺西福院 御本尊は十一面観音菩薩、並びに淡島大明神、1593年(文禄2年)隆慶上人が中島本町に建立した。1619年(元和5年)浅野長成公が広島へ入封の折、淡島大明神を当山へ奉祀される。原塚によって焼燬 1957年(昭和32年)国の旭山南西山麓に再建する。国の指定重要文化財「紺紙金泥宝篋印陀羅尼經(965年作)」がある。</p>	<h3>⑩千人墓</h3>  <p>1457年(長祿元年)己斐の岩原城の争奪を巡って武田軍と大内軍の大血戦が旭山南山麓で展開された。千人以上の死者が出たとされ、戦後30年を経た1778年(安永7年)己斐村の人たちが墓を建てて供養した。2基あるのは敵味方のためと言われる。この墓はいづれか行方不明となっていたが1926年(大正15年)に竹藪の中に偶然発見された。同年8月に旭山共同墓地に移された。</p>

旧石内道の歴史めぐり(己斐橋から旧埤道経由己斐埤まで約3.1Km)

<h3>⑪瀬切石</h3>  <p>己斐村と古江村の境界地点を瀬切石という。そのいわれは大昔のあたりは海岸の波打ち際で岩場があり上流から流れてくる流水が岩につきあたりをなしていたのが名付けられたであろうと言われている。現在は小さな祠がある。</p>	<h3>⑫植木屋次郎右衛門の墓</h3>  <p>1619年(元和5年)紀州から、3代広島城主として浅野長成公が入府のとき、大阪の牡丹屋次郎右衛門が牡丹づくりのため藩士に従ってきた。そして植木の適地として白羽の矢を立てたのが己斐である。しかし、この初代次郎右衛門は大阪へ帰るその子が定住した。従ってこの墓は子の1代植木屋次郎右衛門の墓であろう。</p>	<h3>⑬百花園跡と千手観音像</h3>  <p>1883年(明治16年)に百花園が創設された。桃と梅が多く、四方の眺望が素晴らしい。特に奇見どころとして有名だった。1885年(明治18年)善門山徳願寺(六角堂)と福翁が建立された。堂には初代広島城主毛利輝元公が城の守本尊として彫刻したと言われる「千手十一面観音菩薩像」が安置されていた。この像は現在は新山千手観音堂にある。</p>	<h3>⑭河原中の御前社跡</h3>  <p>太古、神功皇后が観音式をしたところと言われ、祠と2本の黒松があった。こゝぜんさんの御前社を建て、明治の頃、この祠を囲むように約100メートルくらいに輪になって並木を植えたと言われている。2本の黒松のうち1本は切られ、残りの1本も平成3年頃に枯死してしまっ。現在は切株をとりぬくのみである。</p>	<h3>⑮蓮照寺</h3>  <p>浄土真宗本願寺派、清原山蓮照寺と称す。開山は1717年(享保2年)長楽村の僧惠玉による。このお堂の位置が諏訪伊予、如井、己斐埤へ通じる道の交わりとあり、高かつ本往還に通じて広島へ至っていたので格好の己斐の道路元標の役割を果たしていた。</p>
<h3>⑯光西寺</h3>  <p>法顯山光西寺 浄土真宗本願寺派 1704年(宝永元年)に広島藩の細工町西向の弟子智地が百花園にあった庵寺教坊を再興したと伝えられている。1879年(明治12年)光西寺の寺号公称許可、1910年(明治43年)中島町の西福寺から移転して本堂建設、1942年(昭和17年)梵鐘供出、1967年(昭和42年)梵鐘復元</p>	<h3>⑰庄屋跡</h3>  <p>己斐の誇れる偉人であった土井百穀の住居跡である。代々の庄屋で母は越智氏出自であった。景勝地紅葉谷に面しており、丁度己斐村の中央に位置している。紅葉谷を愛でながら、頻りに訪れる詩人、風流人、旧友らと酒肴のみ交わし、談笑し、議論されたという。越智報陣がその名残りを留めている。</p>	<h3>⑱通玄石</h3>  <p>明の国師神師(日本黄葉宗の開祖)が1655年(明暦元年)に己斐の加々桑山(小茶臼山)を訪れたとき、その山上からの景色が麗しくして有名だった。この書が流石と賞された。堂には初代広島城主毛利輝元公が城の守本尊として彫刻したと言われる「千手十一面観音菩薩像」が安置されていた。この像は現在は新山千手観音堂にある。</p>	<h3>⑲森の大歳社</h3>  <p>字大歳に在る。鎮座年限は不明である。御神体は石である。祭神は大歳神で穀物の守護神である。1906年(明治39年)神社合併令が公布され、2年後の明治41年一村一社として己斐町内の小祠が旭山神社に合併された。大歳社の御神体も旭山に遷されたが、地元の希望が強く元に戻された。それ程に地元の信仰心が厚かった。</p>	<h3>⑳坊僧観音堂</h3>  <p>浄土宗、本堂は1532年(天文元年)己斐村の石原新三郎が創建、1878年(明治11年)再建。このお堂の位置が諏訪伊予、如井、己斐埤へ通じる道の交わりとあり、高かつ本往還に通じて広島へ至っていたので格好の己斐の道路元標の役割を果たしていた。</p>

旭山神社境内の歴史めぐり

<h3>⑳滝の観音</h3>  <p>住古より堂宇があったが中古に至り荒廃、1850年(嘉永3年)己斐村の越智半右衛門が自費で再興、宇瀧が垣にあり、観音堂の傍らに直下7mの小滝がある。明治初めの頃、避暑客や修験者が多かった。正式には法道山観音教順寺と言われ、戦前には広島新四国八十八ヶ所の第十一番だった。</p>	<h3>㉑国泰寺</h3>  <p>1978年(昭和53年)中区中町より己斐上三丁己斐埤近くに(移転)された。戦前は菅原寺、広島別院と共に広島3大伽藍の一つ。開基は1594年(文禄3年)曾忠理の臨濟宗安国寺に始まる。開山は1619年(元和5年)曾善照が曹洞宗国泰寺に改めたことによる。浅野氏の菩提寺でもあった。境内には浅野長成公の墓や菩提寺、普照、大石良雄の美、歴代各住職、寺西信之等の墓がある。</p>	<h3>㉒土井百穀碑銘</h3>  <p>1828年(文政11年)己斐村の代々の庄屋の家に生まれる。通称善右衛門、土井百穀は己斐が生み出した教育者、明治維新に於ける教育界の先覚者である。1887年(明治20年)5月瀬切石近くの国道筋に県下の有志、子弟が頌徳碑を建立した。没後35年を経た1917年(大正6年)5月15日「百穀翁追善会」が町をあげて盛大に行われた。その折、石碑も旭山神社下境内に移された。</p>	<h3>㉓上野旭峯彰徳碑</h3>  <p>1850年(嘉永3年)10月己斐に生まれる。通称彰徳。土井百穀の愛弟子で12歳の若さで教鞭をとり始める。1883年(明治16年)8月から己斐小学校初代校長に就任以来20年間校長を務める。明治44年に退職するまでおよそ半世紀の間、己斐の子どもの教育に生涯をさげた。己斐の子ども達に教育に生涯をさげた。己斐の子ども達に教育に生涯をさげた。己斐の子ども達に教育に生涯をさげた。</p>	<h3>㉔橋本調二翁頌徳碑</h3>  <p>この頌徳碑は1961年(昭和36年)6月26日有志により建てられた。1884年(明治17年)己斐に生まれ、熱血漢で己斐町民全てに活力と勇気を与えたものである。己斐町消防組にあること166年、大正15年9月東京で全国消防組大会があった折、昭和三十八年「あの元気のいいものは誰か」と下問されたという。</p>
<h3>㉕大正天皇御即位記念樹</h3>  <p>1915年(大正4年)11月10日新天皇(後の大正天皇)が即位されたのを記念して旭山神社参道の石段八合目あたりにこの地に己斐町民が植樹した。2015年(平成27年)11月10日で植樹されて100年を迎え、己斐で一番の大樹となった。胴回り4.4m</p>	<h3>㉖忠魂碑</h3>  <p>1922年(大正11年)10月、旭山神社拝殿の横に建立。1937年(昭和12年)社殿を建て替えるため現在地に移植。加工石では己斐の最も大きな石碑である。背面には甲申戦後からソビエト出兵までの戦死戦傷者18名の氏名が銘刻されている。GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)により除去命令が出たが、当時の川本連合町内会長がセメントを塗って湖塗した。</p>	<h3>㉗雙翠萬古の碑</h3>  <p>1900年(明治33年)5月10日明治宮仁親王(はるのみやよしとしん)の(後の大正天皇)と九条節子(くじょうのちよこ)との結婚された。己斐村では若い二人の永久の繁栄を願って参道の石段を降り切った少し手前右の地にこの「雙翠萬古」の碑を建立した。</p>	<h3>㉘絵馬堂(旧社殿)</h3>  <p>この絵馬堂は現在の拝殿があるところに江戸時代1843年(天保14年)に社殿として建てられたものである。1937年(昭和12年)9月、社殿建て替えるため現在地に移設された。己斐町の中で最も古い絵馬堂の建物である。室内には舞楽の絵馬が掲げられている。</p>	<h3>㉙旭山神社</h3>  <p>200年頃神功皇后が松山に上られて野立されたとき春たつた大層喜ばれたことから地名を置とし、その由縁から八幡宮を勧請し、推定800年頃己斐産土八幡宮が誕生した。1555年(弘治元年)毛利元就が備前合戦の戦勝祈願に此の社を訪れたとき大層喜ばれたことを見て縁起良いとして旭山八幡宮と称された。</p>

己斐音頭

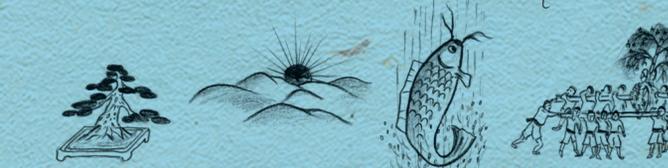
一、己斐の祭りのお祝いに
己斐の始まり旭山
八幡神社の名の起り
伝え聞いている物語り
音頭に載せてお祝い

二、己斐のいわれは其のむかし
神功皇后 出で給い
三韓征伐 その折に
鯉を献上 奉る
縣の主に 始めたり

三、時代は下って戦国の
動乱騒ぎの最中
毛利の殿様 元就公
臨む戦の必勝を
出づる朝日に祈念して
名付け給いし 旭山
八幡神社と 称したり

四、ずいとい下って江戸の頃
己斐の植木屋次郎右衛門
上の堤に 始めた
植木・盆栽 その技術を
明治・大正・昭和の代
代々伝えて 今の世に
己斐の植木と 賞される

作詞者 田中 中野 茂武
作成年月日 平成28年4月1日



己斐の歴史年表

二〇〇年頃	神功皇后が黒龍に大層喜ばれたので地名を「鯉」とした
七〇〇	あき国をえき郡部村誕生
一六〇	大正元
一五五	「好字二文字化」により安芸国佐伯郡己斐村とする
一五〇	安芸国佐伯郡己斐村となる
一四五	長興六
一四〇	弘治元
一三五	天正十七
一三〇	元和五
一二五	毛利輝元が広島城の位置決め旭山に登る
一一〇	浅野長成にゆづり来た次郎右衛門が己斐で植木屋格を始める
一〇五	安芸国佐伯郡己斐村に復す
一〇〇	寛文四
九五	安芸国佐伯郡己斐村となる
九〇	明治五
八五	明治六
八〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
七五	明治十
七〇	佐伯郡己斐町とする
六五	佐伯郡己斐町となる
六〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
五五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
五〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
四五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
四〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
三五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
三〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
二五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
二〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
一五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
一〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
五	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する
〇	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開校する